



## ■キトラ古墳壁画保存管理施設の公開にむけて

9月24日(土)に国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区が開園します。公園内にはいろいろな施設がありますが、中でも注目されるのはキトラ古墳壁画体験館「四神の館」(以下、四神の館)と、特別史跡キトラ古墳です。

キトラ古墳は飛鳥時代の終わりころ、7世紀末から8世紀初めに造られた古墳です。石室内に四神・十二支・日月像・天文図の壁画が鮮やかに描かれていました。キトラ古墳そのものは特別史跡に指定されており、公園化にあわせて古墳周辺も整備されました。墳丘は失われた部分に盛土をほどこし、古代の大きさに戻りました。古墳の前に続く園路には、壁画の金属プレート(四神等の図像を凸線で表しており、紙と鉛筆等で図像の乾拓を探ることができます)や、墳丘周辺の地形模型があります。これらは触れて体感もできる展示となっています。

いっぽう、四神の館は、地下階がキトラ古墳を中心とした展示施設、地上1階が壁画を保存し、公開する施設になっています。

キトラ古墳の壁画は保存のために1,143点に分割して石室から取り出され、ながらく修理作業がおこなわれていました。これまで、作業の進捗にあわせて四神や十二支の図像部分だけの特別公開を飛鳥



特別史跡キトラ古墳の様子

資料館、東京国立博物館において文化庁・奈良文化財研究所等が開催してきました。このたび、接合が終わったキトラ古墳壁画を保存・公開していくために、四神の館の一階部分に文化庁のキトラ古墳壁画保存管理施設(以下、保存管理施設)が設置されました。奈文研はこの保存管理施設の運営と公開等の事業に協力することとなりました。9月24日(土)のオープンとともに、キトラ古墳壁画の実物を期間限定で公開する予定です(公開方法等は検討中)。

保存管理施設の中心部は厚い二重壁で囲われているので、温度・湿度を保ちやすく、万一の空調停止の際も急激な環境変化がおこりにくい構造となっています。見学者は、壁画を通路からガラス越しに見ることができます。通路の端には出土品の展示ケースもあります。

キトラ古墳壁画は薄い漆喰の上に顔料で描かれた脆弱なもので、伝統的な書画等と同じように、環境変化やムシ・カビ等によるダメージを比較的受けやすい文化財です。後世に少しでも良い状態で伝えていくためには、適切な温湿度を保つことや、強い光を避ける等の配慮が求められます。そのため、キトラ古墳壁画も公開する壁画の数と期間とを限定せざるをえません。壁画を守ることを最優先として、バランスをとりながら、保存と公開活用、そして調査研究をおこなっていくこととなります。

(飛鳥資料館 石橋 茂登)



四神の館での壁画公開(イメージ)

## 発掘調査の概要

藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査

(飛鳥藤原第187次)

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)は、2015年度冬に、本薬師寺のすぐ南に位置する橿原市城殿町で発掘調査をおこないました。藤原京の条坊呼称では西二坊大路とそれをはさんだ右京九条二坊西北坪と九条三坊東北坪にあたります。また調査地は、瀬田遺跡という遺物散布地として県の遺跡地図に登録されています。調査要因は、奈良職業能力開発促進センター(ポリテクセンター奈良)本館建替にともなうもので、藤原京では久しぶりの2,000m<sup>2</sup>を超える面積の調査でした。

今回の調査は、まず8月から9月にかけて、旧木館解体にともなう立会調査から着手しました。昭和30年代に建てられた旧木館の基礎は思いのほか深く、基礎杭や縦横に走る地中梁、大型のゴミすて穴等で遺構面はかく乱をうけていました。かく乱土坑から弥生土器の破片がみつかるほどで、藤原宮期の遺構面はすでに破壊されているのではと思ったほどです。仮囲い設置等を終えた後、予定を繰り上げて11月末から重機掘削を開始しました。年内はかく乱土坑を掘りあげ、排水溝を廻らす等環境整備に努め、年明けから本格的な調査を開始しました。



右京九条三坊東北坪の建物群(北東から)

その結果、遺構面から数十cmにもおよぶかく乱土坑を完掘すると、その壁面や底にも、遺構がわずかに薄く残存していることがわかりました。

今回検出した主な遺構は、西二坊大路、掘立柱建物10棟、掘立柱塀2条、溝3条、井戸1基、土坑2基等です。調査区西部の九条三坊東北坪では、整然とした配置の藤原宮期の大型掘立柱建物3棟を検出しておおり、計画的な建物配置が推定されます。一町ないしそれ以上を占める宮外官衙か、貴族の邸宅の一部を検出したのでしょうか。このほか、弥生時代に属する周溝墓を複数検出しています。その詳細は、現在観意調査をすすめているところですが、調査区中央で周濠のほぼ全貌を把握した径約18メートルの大型円形周溝墓を、冬現場では親しみを込めて、「ポリテク1号墓」という愛称で呼んでいます。

この現場では、当初4月に計画していた全景撮影と空撮を3月初旬に前倒しして実施したため、空撮用ヘリコプターが整備中という軽微なアクシデントにみまわれました。代わりに手配できた機体は、窓の開閉ができないタイプ。重要な遺跡を窓越しに撮影する訳にもいかず、業者さんの提案でドアを外して飛ばすことになりました。撮影を担当した写真室の職員は、「映画の戦争シーンのようなヘリだ!」と、決死の覚悟(?)で八尾空港に出向いていきました。もちろん、落下物防止が最重要ですから、機内ではシートベルトは当然として、カメラのストラップ部分は機内の鉄製のバーに通し、小物類はバッグへ収める等、いつも以上に万全を期したそうです。その結果や如何に。お水取りの時期でもあり、機内には寒風が吹き込みましたが、安全性に全く支障はなく、ドアがない分自由にカメラを構えることができたため、会心の調査記録を残すことができたようです。



上空での写真撮影の様子  
(扉を外したヘリに搭乗)

(都城発掘調査部 山本 崇)

## 平城京右京三条一坊一坪・二坪の調査

(平城第552次)

現在、奈良文化財研究所では国土交通省により進められている史跡朱雀大路跡等の整備に向けて、これにともなう発掘調査をおこなっています。今回の調査は、朱雀門前における朱雀大路の規模、ならびに平城京右京三条一坊一坪・二坪やその間を通る三条条間北小路の実態をあきらかにすることを目的として実施しました。調査期間は2015年12月16日から2016年3月30日までです。調査区は平城京右京三条一坊一・二坪の朱雀大路に面した東側に南北2箇所に設定しました。

主な調査の成果として、以下の4点があげられます。まず、北区・南区あわせて、朱雀大路西側溝を計約40mにわたって検出しました。朱雀大路の規模は、朱雀大路をはさんで東にある、左京三条一坊一・二坪の調査で検出した東側溝の成果とあわせると、側溝の心心間で約74mとなります。これはこれまでの調査で判明している朱雀大路の規模と整合します。今回の調査では、これまでの調査よりも大きな面積で西側溝を検出したことにより、朱雀大路の規模や平城京の排水計画を検討するための十分な資料を得ることができました。

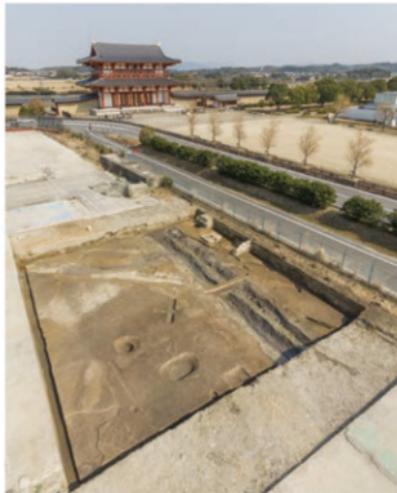
次に、右京三条一坊一坪の坪内道路が存在する可能性が高くなりました。右京三条一坊一坪の南北を

二分する位置付近で東西溝を検出しました。この位置は、左京三条一坊一坪で検出した坪内道路北側溝の位置とはほぼ一致します。またこの溝と朱雀大路西側溝の接続地点で、朱雀大路西側溝を渡る橋を検出しました。この2点から、右京三条一坊一坪にも坪内道路が存在したと推測できます。坪内道路の幅については、北側溝と橋との位置関係等から、さらに検討が必要です。

3点目として、三条条間北小路の南北両側溝を確認しました。その規模は両側溝の心心間で約5.5mです。二坪を区画する築地塀は削平されたと考えられます。しかし、雨落溝に相当する素掘溝を検出し、また周辺から出土した多量の瓦類の存在から、本来築地塀が存在したと推測できます。これは左京三条一坊二坪の成果と共にし、左京・右京とも二坪には、朱雀大路に面する東辺と、三条条間北小路に面する北辺に築地塀が築かれていたと考えられます。

最後に、右京三条一坊一坪は、少なくとも東辺と南辺に遮蔽施設がない可能性が高くなりました。左京三条一坊一坪にも遮蔽施設がないことが判明しており、朱雀門前は左京・右京の三条一坊一坪を取り込んだ東西約260m、南北約140mにおよぶ広場的な機能をもつ空間であったとみられます。このことは、朱雀門前の利用方法を考えるうえで重要な成果といえます。

(都城発掘調査部 丹羽 崇史)



北区全景(南西から)



南区全景(北から)



### 藤原宮下層運河出土獸骨

藤原宮の中心部では、その下層に幅6~9m、深さ2mほどの大規模な南北溝が貫流しています。この溝は、宮の造営に南北約6mの範囲で運河を調査しました。検出した運河の規模は、幅約6.5m、深さ約1.8mでした。最下層に堆積する粗砂の骨が大量に出土しました。

最も多く出土したのは馬の骨でした。全身の骨がまとまっておらず、散乱した状態で出土したことから、埋葬や遺棄さです。頭蓋骨を割って脳を取り出した痕跡だと推定されます。757年に施行された養老律令の廃牧令によると、官の牛馬期のものですが、死んだ馬から脳等様々な資源を回収することがすでにおこなわれており、それが後に規定となって条文



関わる資材を運搬するための運河であると考えられています。昨年度の調査では、大極殿院内庭の中央部南側において、層は運河の機能時のものです。この粗砂層からは多量の土器、木製品、種子類とともに、馬、牛(右手前)や犬(中央手前)

れた馬ではなく、解体された馬であることがわかります。とくに注目されるのは、馬の頭蓋骨がすべて削られていたことが死んだ場合は皮や脳、角、胆のうを回収することが規定されています。出土した馬の骨は養老律令の施行よりも古い時代化されたものと考えられます。(左手前の馬頭蓋骨の全長約50cm)

(都城発掘調査部 大澤 正吾／埋蔵文化財センター 山崎 健)

## セインズベリー日本藝術研究所との共同研究

2015年12月22日、奈良文化財研究所は英国セインズベリー日本藝術研究所との共同研究に関する協定を締結しました。

セインズベリー日本藝術研究所(Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures; SISJAC)は、英國東南部、ノーフォーク州の州都ノリッチ(Norwich)という町に所在します。ノリッチは人口13万人規模の地方都市ですが、歴史と伝統のある街で、ノリッチ大聖堂は英國では2番目の高さを誇る尖塔で著名です。

セインズベリー日本藝術研究所は、ロバート・セインズベリー卿夫妻の資金援助のもと、日本の藝術や文化への知識と理解を推進する目的で1999年に設立されました。ノリッチ大聖堂のすぐ近くに所在し、恵まれた環境のもとで研究を進めています。現在は、英國のトップ20大学のひとつと評価される地元ノリッチのイースト・アンガリア大学(UEA)をはじめ、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)、大英博物館等と密接な連携関係をもち、それを通じて共同研究を推進しています。具体的には、フェローシップ制度、講演会、国際ワークショップ等を実施するとともに、ホームページの充実、研究成果の出版に力を注いでいます。海外における日本文化研究のセンターであると同時に、日本考古学の成果を海外に発信する拠点となっています。

考古・文化遺産学センター長を務めるサイモン・ケイナー博士は日本の先史考古学を専攻され、日本、英國をはじめ世界中で考古学調査をおこなって



ノリッチ大聖堂と研究所(研究所HPより)

います。また、東アジア・ヨーロッパ考古学の様々な局面について教鞭をとり、著書も多数ある、海外における日本考古学研究の第一人者です。

奈文研は、これまで文化庁が1992年に米国スミソニアン研究機構およびアーサー・M・サックリー美術館と共同で開催した「古代の日本 Ancient Japan」展や、2004年のドイツでの「日本の考古－曙光の時代」展に主体的に関わり、日本考古学の成果を海外に紹介してきました。また、海外における調査研究の成果報告書を英語で刊行する等、英語圏にむけた情報発信に努めてきました。また、英國においては、2009年に大英博物館で開催した「The Power of Dogu: Ceramic Figures from Ancient Japan」展が多くの観客を集め等、日本の歴史と文化に対する関心は高いものがあります。

協定は、セインズベリー日本藝術研究所の水鳥真美統括役所長が来所され、松村所長とともにサインをし、終始和やかな雰囲気の中で取り交わされました。今回締結した協定は、日本考古学の国際的研究の推進事業を共同して実施すること目的としたものです。奈文研が主体となって刊行した書籍や公開しているデータベースをもとに、セインズベリー日本藝術研究所が英語で日本考古学の書籍刊行やデータベースを作成することは、日本考古学の国際的研究の推進に大きく貢献することと考えられます。同時に、奈文研の活動を広く海外に発信することとなり、今後の進展が期待されます。

(都城発掘調査部長 玉田 芳英)



協定に調印した水鳥所長と松村所長

## 年輪年代学用木材標本リスト

年代学研究室では、2015年度、年輪年代学用木材標本の整理を重点的におこない、現生木材標本についてのリストを作成して「埋蔵文化財ニュース162号」として出版しました。年輪年代学では、年輪が形成された年代を誤差なくあきらかにすることができますが、そのためには年輪の形成された年が明確な現生木から遡った年輪変動のデータを蓄積する必要があります。そのため奈良文化財研究所では、文化財ではなく自然史標本の範疇に入るともいえる年輪年代学用の各種木材標本を多数、収集してきました。この標本群は、我が国において年輪年代学の応用が成された根拠を示す証拠としての役割を担い、再現性を保証する重要なものであると同時に、昨今の森林事情を考えると現在では入手困難なものも多いため、これらを収藏し、リストを公開する意義はとても大きいものだと考えています。

今回報告したのは、2016年3月までに整理した現生木材標本870点ですが、今後も標本数・内容とも充実させていく予定です。本標本は、年輪年代学を目的として収集された特徴的なもので、高樹齢の樹木の樹幹を輪切りした円盤状の形状をしています。このような木材標本がまとまって収藏されている例は少なく、森林科学や自然史学等多方面での活用も期待できる貴重な標本群であるといえます。また、円盤状の樹幹の輪切りは、一般に年輪をイメージしやすいことから展示品として活用されることも多く、この夏には大阪市立自然史博物館の特別展「氷河時代—化石でたどる日本の気候変動ー」でも本標本群からの展示が予定されています。ぜひ、この機会に、ご覧いただければと思います。

(埋蔵文化財センター 星野 安治)



大型木材標本の収蔵状況

## 全国遺跡報告総覧シンポジウムの開催

2016年2月18日、埋蔵文化財の発掘調査報告書をインターネット上で検索・閲覧できる全国遺跡報告総覧のシンポジウム「文化遺産の記録をすべての人々へ!—発掘調査報告書デジタル化の方向性を探るー」を鳥根大学附属図書館と共に開催しました。全国遺跡報告総覧とは、発掘調査報告書のデジタル化とその公開を目的として、全国21の国立大学附属図書館が連携して取り組んできたプロジェクトの成果を、奈良文化財研究所が引き継いで公開したものです。

シンポジウムでは、水ノ江和同氏(文化庁文化財部記念物課)による基調講演で、報告書のデジタル化についての基本的な考え方方が述べられました。続いて菅野智則氏(東北大埋蔵文化財調査室)、石坂憲司氏(信州大学附属図書館)、中鉢賢治氏(静岡県埋蔵文化財センター)、宮崎敬士氏(福島県教育庁文化財課南相馬市駐在)の各氏による事例報告がおこなわれました。事例報告では、大学・大学附属図書館・公立調査機関・自治体のそれぞれの立場から、現在の取組や課題が報告され、全国遺跡報告総覧に参加を検討している機関の担当者にとって参考となりました。

最後におこなわれた小滝ちひろ氏(朝日新聞編集委員)のコーディネートによるパネルディスカッションでは、事前に会場から回収した質問票にもとづき、議論が展開されました。

自治体の文化財担当者を中心に、考古学の大学教員や図書館関係者等多方面から約80名の参加者がいました。参加者からは「報告書の公開方法等今後の参考になった」との感想をいただきました。予稿集や当日資料もWEB公開していますので、ご興味があればぜひご確認ください。

全国遺跡報告総覧(<http://sitereports.nabunken.go.jp>)

(企画調整部 高田 祐一)



シンポジウム パネルディスカッションの様子

## 飛鳥資料館 夏期企画展 第7回写真コンテスト 「飛鳥の石」

飛鳥の歴史に石は欠くことができません。飛鳥川の石橋、香具山の磐座、須弥山石や二面石等の石造物、古墳の石室、宮殿の石敷等、多くの石の文化財が伝わります。また、傾斜地が多い飛鳥では、石垣を築いた民家や長い石段をもつ寺社等、現代でも人々の暮らしに寄り添う石の姿がみられます。これも飛鳥の石の文化といえるでしょう。

今回の写真コンテストでは、飛鳥地方の「石」をテーマに、人々の営みや歴史を感じさせる石を撮影した写真を募集します。飛鳥の石の新たな魅力を写真で表現してください。

(飛鳥資料館 西田 紀子)

応募締切：7月3日(日)必着

写真展示期間：7月26日(火)～9月4日(日)

来館者投票期間：7月26日(火)～8月21日(日)

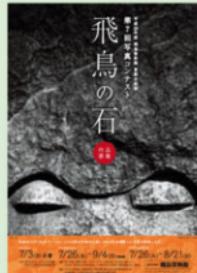
「飛鳥光の回廊」にもなう無料開館：8月27日(土)、28日(日)18:00～21:00

ろうそくの灯りで庭園をライトアップします。幻想的な景色をお楽しみください。

お問合せ・応募先：〒634-0102 奈良県高市郡明日香村奥山601

飛鳥資料館 写真コンテスト係 ☎0744-54-3561

ホームページ：<http://www.nabunken.go.jp/asuka/>



## 平城宮跡資料館 平成28年度夏のことども展示

### 「ナント！おいしい!? 平城京!!—奈良の都の食事情—」

今年で4回目となる小学生親子向けの夏期企画展。2016年度は「ナント！おいしい!? 平城京!!—奈良の都の食事情—」と題し、「役人も給食を食べていた!?」「名物に歴史あり!?」等、平城京にくらした人々の食に関わるトピックを取り上げ、関連する出土品や、研究成果等を紹介します。会期中には、子供向けの楽しいギャラリートークも開催予定です。ぜひ、ご家族でご一緒にお越しください。

(企画調整部 中川 あや)

会期：7月23日(土)～8月31日(水)月曜休館

ギャラリートーク(予定)：7月29日、8月5日、19日(いずれも金曜日)各回14:30～

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/>

お問合せ：☎0742-30-6753(連携推進課)



## ■ お知らせ

### 平城宮跡資料館夏のことども展示

2016年7月23日(土)～8月31日(水)

「ナント！おいしい!? 平城京!!—奈良の都の食事情—」

### 飛鳥資料館夏期企画展

2016年7月26日(火)～9月4日(日)

第7回写真コンテスト「飛鳥の石」

## ■ 記録

### 文化財担当者研修

○建築遺構調査課程

2016年6月6日～6月10日 4名

○古文書歴史資料調査基礎課程

2016年6月20日～6月24日 23名

### 飛鳥資料館冬期企画展

2016年1月29日(金)～3月6日(日)

「飛鳥の考古学2015—飛鳥の古墳調査最前線—」

2,504名

## 平城宮跡資料館ミニ展示

(第Ⅱ期) 2016年2月13日(土)～3月31日(木)

「発掘速報展 平城2015」 10,329名

### 現地説明会等

○飛鳥藤原第187次発掘調査 現地見学会

藤原京右京九条二・三坊

2016年5月15日(日) 1,753名

○平城第566次発掘調査 現地見学会

平城京二条大路・朱雀大路跡

2016年6月11日(土) 505名

### 第118回公開講演会

2016年6月18日(土) 202名

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp>

Eメール [jimu@nabunken.go.jp](mailto:jimu@nabunken.go.jp)

発行年月 2016年6月